2021年度 成果報告会

校 友 会 未 来 人 財 育 成 奨 励 金

- 学生団体 BohNo P.1
- チャレンジ、ふくしま塾。4 期 P.11
- るーらるらいふ P.17
- Lápiz Private P.27
- TOR（Trainers Organization of Ritsumei） P.34
- Enable Impossibility,Kiss Icecream P.42
- 立命の家実行委員 P.49
- Satoniwa P.59
- Uni-Com P.66
- 立命館大学薬学部活性化委員会 （R-PAC) P.74
- Sustainable Week P.84
- TaBiwa+R P.91
- 学生団体「ぎゅっと滋賀」 P.99
- カノール P.107
- Canola P.115
- 茨木ご当地ソフトクリームプロジェクト P.125
- Nyim Coffee P.134
- Bottle to bottle プロジェクト（BtoB) P.140
- 学生メディア団体 Syumirun! P.147
- Team-mate P.153

校友会未来人材育成奨励金　成果報告会
学生団体BöhNo

テーマ

「フードロス×世界の食文化」
というコンセプトのもと
子ども達に食を通じて世界を知る機会を与える

03

目的

固定観念を取っ払い、新たな価値観・行動力を生むためのきっかけや機会を子ども達に提供する

高校2年生の時にフィリピンへ。
5歳ぐらいの子ども達がゴミ山で
働いている姿を見て驚愕。
そこから、貧富の差に関係なく、
たくさんの子ども達の視野を広げたい
という想いで学生団体BohNoを設立。

活動内容①　BohNo Cafeの開催

BohNo Cafeとは？

2か月に1度ワークショップを開催し、
各回1つの国をテーマに、
その国の家庭料理を取り入れたお弁当を作り、
提供しているイベント

お弁当…規格外野菜などのフードロスを使用

活動内容①　BohNo Cafeの開催

BohNo Cafeとは？

第1回　フィリピン (オンライン)
第2回　韓国 (対面)
第3回　フランス (オンライン)
第4回　ガーナ (オンライン)
第5回　ブラジル (オンライン&対面)
特別回　ロハスフェスタ (対面)
第6回　カナダ (ハイブリッド)
第7回　オーストラリア (コロナで延期)

活動内容②　フードロス専門店の開催

フードロス専門店とは？

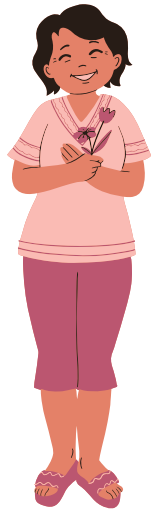
規格外野菜やコロナ禍で行き場を失った野菜や果物を販売し、食べ物のレスキュー活動

活動成果

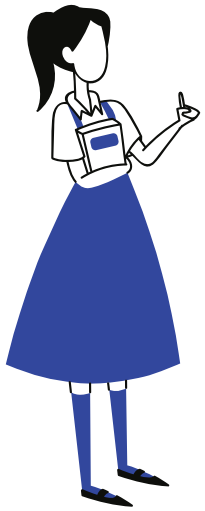
子ども

BohNoのイベントに参加することで
新たなチャレンジ精神が芽生えて、
自分でやりたい！って言うようになった

料理も文化も知ることができる
とても素晴らしい機会をありがとうございます。



参加者のお母さま



BohNoのメンバー

子ども達だけじゃなく、BohNoに参加して
自分自身もいろんなことに
チャレンジしたいと思うようになった

活動で学んだ事

繋がりは繋がりを生むこと

今後のコンセプト

「食×SDGs」

今後のビジョン

食品ロスを削減し、
食を通して
若者に視野を広げる
体験を与える

食育

身近な”食”から
SDGsを感じるイベント

商品開発

旬がすぎた冷凍メロン

食品ロス

フードロス専門店

ありがとうございました。
BöhNo
公式 HP
公式 LINE
BOHNO.CAFE
公式 Instagram
公式 Twitter
フードロス
専門店

最終報告会

チャレンジ、ふくしま塾。4期

①活動テーマ

「自分たちが現地で学んだことを活かして、福島の今を知ってもらう」

→現地に滞在し、学んだからこそしか分からない福島の魅力(光と影)を、
関西から少しでも知ってもらいたいという思いから。

②活動目的

「立命館学生に向けて、福島の情報を知ってもらう事により、福島の魅力について知ってもらうきっかけづくりを行う。」

③活動内容

①4～5(6)月：活動内容決め

②7～10月：福島県庁の方、生協の方と打ち合わせなど

③11月1日～5日：生協さんとのコラボ(福島はらくっちフェア)@衣笠・OIC

→衣笠では同時期にクイズ企画を実施

④11月28日：OICの学祭にてクイズ企画を実施

④活動の成果（活動して得たこと、失敗から学んだこと）

- 活動して得たこと：

①福島はらくっちフェアで食べてくれた人がたくさんいたというデータを頂いたことから、多くの人が福島への関心を持ってくれたきっかけづくりができたこと。

②役割分担を行い、団体を運営していく術を学べたこと。

- 失敗から学んだこと：

①金銭面の問題でメンバーの中で意思統一をすることが出来なかったことで、たくさんの人に迷惑をかけてしまった。

→2つの活動について班を分けるのではなく、管理や統括のメンバーでさらに意思統一するべきだった。

⑤今後の活動内容や今後のビジョン

・災害復興支援室のプログラムである「チャレンジ、ふくしま塾。」の活動を2020年度に行い、そこから派生して活動しているので、今後の活動はやらない方向で考えている。

→もし2021年度の塾生が活動を行うという方向であれば、2021年度の塾生で行ってもらう方向で考えている。

るーらるらいふ

2021年度校友会未来人財育成奨励金(団体支援)　成果報告

立命館大学産業社会学部
新山大河・森田健乃介・玉木敦之

活動テーマ

るーらるらいふ

「田舎で暮らす」をテーマにした農村社会学のフィールドワークを行う団体

▶問題意識

飲食店

営業時間短縮

客足が読めない

テイクアウトの導入

環境問題

田舎

周りの目

匿名性が低い

生食

持ちが悪い

活動目的

▶活動目的

コロナ禍に翻弄される飲食店の現状把握と、フードロス/ゴミ問題を通じて、SDGsの達成に与すること。

・客足が読めない中での仕込みの調整、作りすぎによるフードロスなど、コロナ禍では感染源として、飲食店に甚大な被害が発生している。また被害については、地域での格差も存在する。

・利用客の匿名性が高い都市部に比べ、地方では関係者の把握が容易で、クラスターが発生した際に嫌がらせなどの被害が大きい。

・また新たに展開される持ち帰り対応も深刻である。
プラスチックを利用した容器が必須となり、ゴミの増加には歯止めがかけられない。

本活動では被害の一番大きいと思われる、地方かつ生食を扱う蕎麦屋での活動を行う

活動目的

▶活動目標

・コロナ禍における飲食店の抱える問題を明らかにする

・SDGs達成に寄与

・啓蒙活動を展開

社会学的方法論の参与観察を通じて、飲食店へのコロナ禍の影響を調査/現状把握と、プラスチックフリー容器作成/提供を通じて環境問題への啓蒙活動を行うことができる。

活動内容

飲食店の抱える問題を明らかにする

【手法：フィールドワーク・参与観察・インタビュー調査】

・プラスチックフリーの容器を提供
・プラスチックフリーに関する環境問題への啓蒙

・調査で明らかとなった問題をポスター・フリーペーパーで発信
・SNSを通じた啓蒙活動

活動内容

6月	輪読会実施（zoomで実施）
7月	輪読会実施（zoomで実施）
8月	輪読会実施（zoomで実施）
9月	輪読会実施（zoomで実施）
10月	輪読会実施（zoomで実施） 検温実施
11月	現地出張（11月6日から11月10日） データの整理・検討 調査データからの現状共有
12月	データの整理・検討 フィードバック：SNSでの宣伝（3人のフォロワー合計：10000人程）
1月	活動休止期間
2月	プラスチックフリー容器の試作品を作成 フードシェアリング利用の検討 フィードバック：ポスター

活動成果—明らかにしたこと

▸背景
「親戚同士のつながりとかから、すぐに噂が広まる」という語り
ご近所づきあいや親戚同士のつながりなどによって匿名性が低い

【お客さんの語りから】

・町内会のイベント等が減っているため、地元の飲食店での会話が、貴重な「つながり」の場としての機能を持つ。
・同時に、感染した場合にその噂がすぐに広まるため、コロナに対する意識が比較的高く、テイクアウトの利用も多い。

活動成果—明らかにしたこと

【お店側の語りから】

・「このへん」を「市内」とする語りから、営業に関わる問題が発生すると、最悪の場合、噂が広まり「市内」での営業が難しくなる。
・長期の休みを取るとコロナの発生源として疑われる。
・経営状況などについての情報も飲食店間で情報が共有される→環境問題へのアプローチ自体が他店に対する啓蒙となりうる
・多くの店が安価でテイクアウトを実施しており、周辺の飲食店でもテイクアウトにプラスチック容器を使用しているため、ごみ問題の深刻化が予想される→プラスチックフリー容器の提供
・高い値段設定ではお客さんが付かず、宅配サービスは仲介料などを支払う必要があるため利用は難しい。
・コロナが始まってから売り上げも日によって様々であり、客足が読めないことによる売れ残りの問題も抱えていた→フードシェアリング利用の検討

活動をまとめたポスターによる啓蒙活動・プラスチックフリー容器の試作品を提供する。
同時に、その後の追跡調査によって、周囲への影響や問題解決への新たな問題の把握に尽力していく。

活動の課題

▶活動課題

・調査を対面で行うことが出来たが、やはりコロナ対策を講じたうえでのインタビュー調査や参与観察は難しいと感じた。

・質的調査では質問への解答からだけではなく、インフォーマルな場で生まれる会話から新たな発見をすることがある。

・コロナウイルス感染拡大の影響で、食事の場やインフォーマルな会話の機会を設けることが出来ない場合、調査協力者との関係の構築や、インフォーマルな場も含めた調査の実施という点が難しい

今後の活動

①「田舎暮らし」が抱える問題にアプローチしていくことを通して、研究活動を継続する。

②新たに「環境問題」へのアプローチ　今後も新たなテーマへの挑戦を試みる

③新たにメンバーを加え、活動の規模を大きくする。今回得られた知見を引継ぎ、学術団体としての活動のノウハウや知見を継続的に蓄積していくことができる「場」となる。

Lápiz Private
2021年度活動報告書

Lápiz Private 代表
山内瑠華/和田彩也巴/チョン・スミン

01. 活動テーマ

「へんてこりんでもええやん」・「へんてこりん野菜で『面白い』をつくる」

へんてこりん野菜＝傷がある、形や色が「普通」の野菜とは違う野菜
私たちは、その「違い」を個性や強みであると考えています。
「普通」の野菜と違っていても素敵。

02. 活動目的

「普通」の野菜と少し違うだけで消費者の元へ
届かない運命を迎えるへんてこりん野菜が
日本には多く存在します。彼らが持つ「違い」を個性・強みと
考えている私たちは、その「違い」の魅力を
伝えるために活動しています。

また、へんてこりん野菜は私たち人間とも似ていると
思います。「人と違うこと＝変」とされ、「普通」に
囚われてしまっている人々も多いと考えます。

素敵な個性・強み・価値観を「普通」に囚われて消そうと
しないで欲しい、「普通」と違くてもええやん！ということも
伝えていきたいと考えています。

03-1. 活動内容

ペイントWS

多くの商業施設やイベントで
ペイントWSを提供。
実際に体験していただいた方に
アンケートを取り、絵の具や
WSの改善に繋げた。

オンラインWS

全国の大学生を対象に
オンラインでWSを開催。
着なくなった服にペイントし、
オリジナルのTシャツを制作した。

エシカルマルシェ出店

株式会社Kanattaさま主催の
エシカルマルシェに出店。
多くのお客様に私たちの活動の目的や
伝えたいことをプレゼンテーションし、
さらに活動の幅を広げることが出来た。

ミスキャンパスコラボ

立命館大学ミスキャンパスさまと
コラボレーションし、
ファイナリストの方々に
ペイントWSを体験していただいた。

03-2. 活動内容

PVの公開

SDGs Creator TEAMさまに団体の紹介PVを
撮影・制作していただき、YouTubeにて公開した。
より多くの人に活動内容を
分かりやすく知っていただけたと考える。

起業塾

京都信用金庫さんの起業塾に参加
し、京都信用金庫賞（1位）を受賞

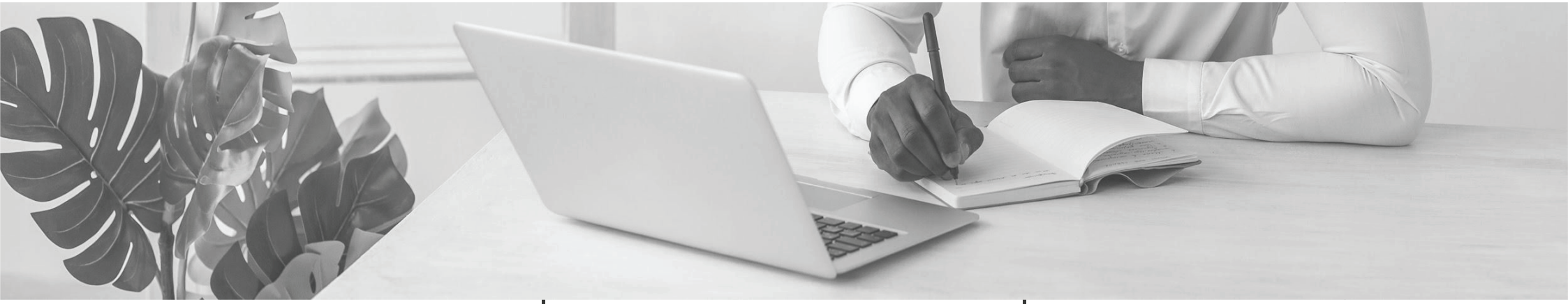
石鹸づくり

絵の具や染めの他に野菜を輝かせる
場所を探し、石鹸を実験的に作った。
パウダーで作った場合と水で作った場合
で見た目が変わることを発見。

Be talkへの出演

株式会社BeさまのYouTubeコンテンツ
「Be Talk」にゲストとして出演。
これを機に関西のみならず、今後は
関東での活動も増やしていく予定。

04. 活動の成果



WSの質を保つ難しさ

何度もWSを行っていること
から、WS自体が単調化して
しまっていることに対する改善

メンバーのモチベーション

人数が増えても、仕事が一部の人に
偏ってしまったり、ミーティングの
日程調整が難しくなった。コミュニ
ケーション不足からモチベーションを
保つことが大変であった。

活動の幅が広がった

現在、学生団体として現在活動
している私たちだが、様々なイベント
に出店させていただいていることで、
企業の方と共に進める仕事も
経験することが出来た。

05. 今後の活動内容やビジョン

より環境に配慮した おやさい絵の具製作

絵の具製作過程において、
電気の消費やプラスチックの消費量など
見直すことが出来る部分がある。
また、なるべくゴミを出さない製作
方法を考えていく。

アートやファッションに 加え、食やビューティーも 展開予定

現在「ラピス＝おやさい絵の具」
のイメージが強い。
今後はおやさい染め、野菜の新しい
食べ方、農家さんコラボハンドクリーム
など幅広い商品を提供できるよう
企画中である。

ラピスの法人化

ラピスプライベートを法人化することで
自分たちの活動を持続的にし、
自らでお金を回していく仕組みづくり
を確立していく予定である。

TOR
活動報告スライド

活動テーマ

「スポーツにおけるさまざまな知識をつける」

「知識をもとに情報発信・提供する」

活動目的

「スポーツを通して社会貢献・社会還元を行う」

活動内容（予定）

知識の普及

・メンバーでの勉強会
・SNSでの発信
・教授の方々とディスカッション
・研究補助，研究参加

小中高生対象の測定会

・球技選手の走り方の測定
・小中学生の体力レベル向上

体育会選手（個人）と連携

・能力測定
・トレーニングのディスカッション

活動内容（実際）

知識の普及

・メンバーでの勉強会
・SNSでの発信
・教授の方々とディスカッション
・研究補助，研究参加

小中高生対象の測定会

・球技選手の走り方の測定
・小中学生の体力レベル向上

体育会選手（個人）と連携

・能力測定
・トレーニングのディスカッション

主な活動

・勉強会
パフォーマンス＋ケガ予防＋栄養など日常生活に活かせる事 etc.

→

最新のevidenceや
授業で習ったことのout put

トレーナーインターン

インスタでevidence発信

活動して得たこと

・正課で学んだことを知識として蓄えることで
社会にでている間違った情報を精査することができる

・習ったことをアウトプットする機会が立命館大学には
ほとんどないことが明らかになった

失敗したこと

・もともとの活動をオフラインで計画していたため
多くの活動がコロナウイルスの影響で制限されてしまった

今後の活動内容

・体育会と連携し，立命館大学体育会の
運動パフォーマンスに関するデータベースの作成

・立命館大学の体育会選手個人を対象とした測定を行い
個々の特長に適したトレーニングプログラムを提供する

・育成年代に対しての測定会・運動指導の実施

今後の活動ビジョン

・4月　新入生や新メンバー募集

・6月　起業

・7～8月　運動イベント実施（収益化）

・9～11月　体育会との連携準備

・12～2月　体育会のパフォーマンス測定（冬期練習期間）

Enable Impossibility Kiss Icecream

代表	髙木瑛貴
副代表	吉田拓人
会計	伊藤駿介

活動テーマ

～児童養護施設の子供たちにスポーツを通じた多くの経験をしてもらう～

活動目的

- 児童養護施設の子供たちが、スポーツを通じて人とコミュニケーションをとることを増やすこと
- 大学生と交流をとることで、大学に入りたいという夢を持ってもらうこと

活動内容

- 各施設に視察訪問（アフターコロナに向けた、今後の活動方針についての話し合い）
- 参加団体サークルとの交渉
- 備品の買い出し

活動の成果（活動して得たこと、失敗から学んだ事）

新しい団体を設立・運営していくという、0から1を生み出すことの難しさを実感しました

児童養護施設の職員やスポーツ団体への団体の活動内容の説明をわかりやすく説明し説得する能力がついた

今後の活動内容や今後のビジョン

新型コロナウイルスの拡大が落ち着き次第、子どもたちとの交流実現に向けて、計画の確認を入念に行う

交流方針が固まり次第、スポーツサークルからの派遣ができるように、サークル団体とのミーティングを重ねていく

SNS（Instagram)を用いて私たちの活動を広めていく

目標：フォロワー300人　kiss_icecream_rits

ご清聴ありがとう
ございました

立命の家実行委員会
2021

立命の家とは

- 「立命の家」は、2001年から続く取り組み。(2021年度で20回目)

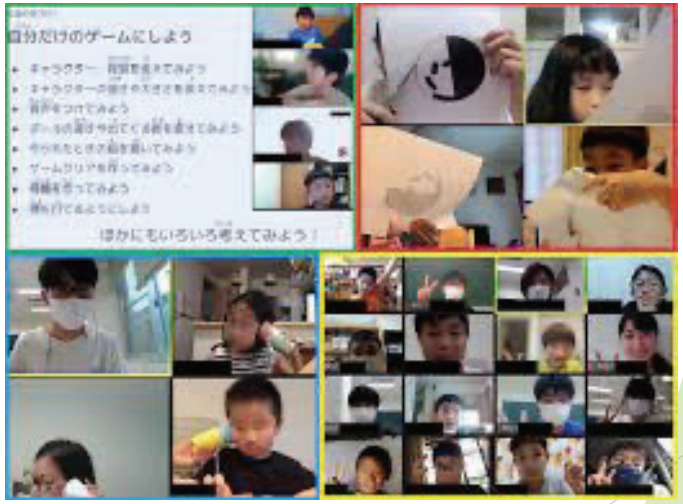
- BKCキャンパスに所属する課外活動団体が集まり、地域の小学生達に体験型学習の学びの場を提供している。

- 学生が主体となって行っている取り組み。

活動の様子

2019年度 立命の家

2021年度立命の家



活動テーマ

- 毎年、実行委員会でテーマを設定する。

今年のテーマは

「興味発見！
新たな出会いを見つけよう！」

2021年度のチラシ→

活動目的

▶ 学生側

・視野を広げること

・相手に物事を伝えるコミュニケーション力の向上

・相手の立場になって考える力を育む

▶ 小学生側

・新しい興味を見つけられる可能性

・大学生という身近な大人達より近しい人と関わる機会を得られる

オンライン開催(2021)での活動内容

8つの企画の中から1つの企画を選んでもらう

↓

企画実施の為の材料を配布

↓

各団体で企画を行う

(90分程度の企画時間の中で事前に用意した活動を行う)

活動の成果

- 企画参加者からのアンケート結果より

オンライン企画という新しい試みに対しても満足して貰えた

- 実行委員、企画参加学生に

「立命の家」という取り組みを認知して貰えたことが一番の成果

(今後も活動を継続する為に必要なこと)

今後の活動内容や今後のビジョン

- 第1に今後も活動を継続していくこと
- 「立命の家」という取り組みを多くの方に知ってもらうこと
- 初めてのオンライン開催ということで、改善や発展の余地は沢山残っているので、今年の活動を土台に更に充実した企画にしていきたい

立命館学生の方々へ

- 立命の家は課外活動団体に所属している学生達

(企画内容によってはOB・OGも参加できる)の貢献によって成り立っています

- 2022実行委員会の方から参加者を募る可能性があります

ご協力頂けると嬉しいです

また、働きかけて貰えると更に発展できると思います

- 何より、「立命の家」という取り組みがある事を知って欲しいです

立命の家2021の活動メンバー

2021年度

satoniwa 活動成果報告

立命館大学 校友会未来人材育成奨励金
活動成果報告書

活動テーマ

大川を中心とした滋賀の自然環境の保全・活用に取り組み、地域が一つになれる共同体を作る

大川の目指すべき未来像

住民から遠い存在の大川

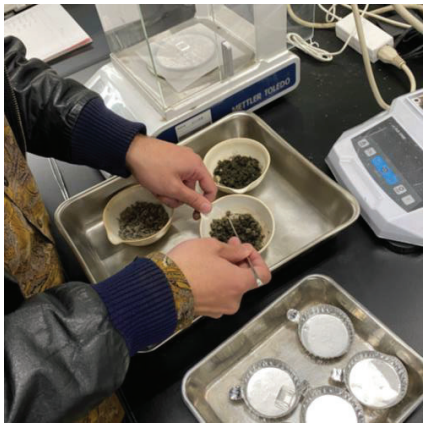
↓

住民にとって身近な存在の大川

活動内容

奨励金採用	7月
文献調査	8月
第1回水質調査	9月
第2回水質調査	12月
水質浄化装置の試作	1月
大川フォーラム	3月

活動内容



大川水質調査

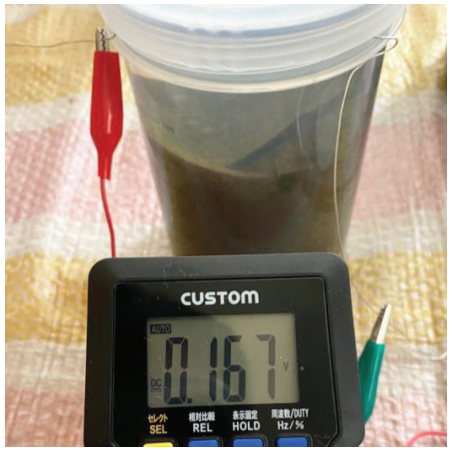
過去と現在の水環境の変化を調べる

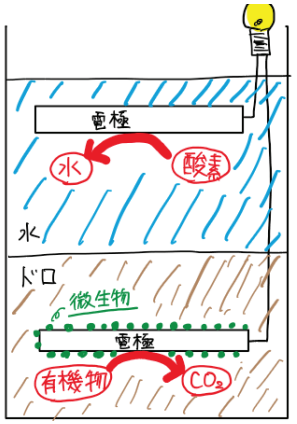
BODと濁度の数値が改善されていない

水質浄化装置の試作

微生物燃料電池の作製

乾電池の10分の1程度の電圧





電池のイメージ

活動成果

活動して得たこと

・地域資源のとらえ方

・地域のニーズのくみ取り方

失敗から学んだこと

・目標設定の方法

・トライアンドエラーの重要性

地域の人とのミーティングの様子

今後のビジョン

水質浄化装置の設置

大川イルミネーションの開催

・微生物燃料電池で明るくする

・大川絵灯篭祭りと共同開催を目指す

・材料も地域の不要な竹で製作する

謝辞

活動にご支援ご協力いただいた

大川活用プロジェクト、立命館大学校友会、立命館大学

佐藤先生、この場を借りて感謝申し上げます。

ありがとうございました。

Uni-Com

活動
テーマ

食品ロス問題を、コンポストの普及による資源循環と地域住民の関心拡大によって解決する。

環境負荷の大きい生ごみ処理の仕組み

生ごみの水分割合

約80%

平成28年度推計　環境省より

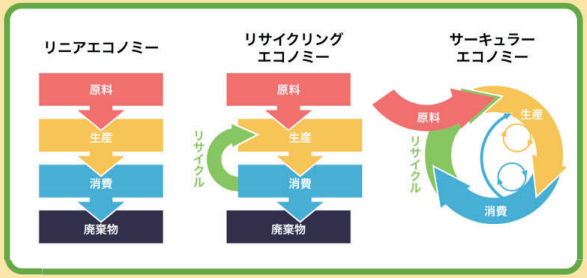
日本の焼却処理の割合

80.3%

平成29年度推計　環境省より

サーキュラーエコノミー

循環型経済とは？



サーキュラーエコノミーの3原則

- 廃棄物と汚染を生み出さないデザイン（設計）を行う
- 製品と原料を使い続ける
- 自然システムを再生する

立命館大学の仕組み

コンポストコミュニティ

どんな人がいるの？

Uni-Com学生メンバー　大学職員さん

どんな人と連携しているの？

立命館ぷらす　大学生　地域の方 農家・飲食店

活動目的

食品ロスをごみとしてではなく資源として地域循環させ、
その中で地域の繋がりを促進し、持続可能な資源の循環型社会をつくる

何をしているの

はじめまして！

地域で循環するコンポストプロジェクト

循環をもっと身近に、あたりまえに

毎日の活動

食堂から
廃棄食材を引き取る

引き取った廃棄食材の
重さを測る

コンポストに入れて
混ぜ混ぜ！

週に１回
切り返しをおこなう

コンポストとは

コンポスト

生ごみが微生物の力で
分解されて肥料になること

立命館での導入経緯

1月～3月

プロジェクト提案！

学習イベントを開催して
みんなで学びながら進める

4月～5月

**資材と協力者
を集める！**

7月

堆肥化イベント開催！

コンポストアドバイザーをお呼びして
実践講座を受ける

7月以降

コミュニティー拡大！

定期的にコンポスト
体験イベントを開催

活動成果

投入した食品ロス

700L の床材に

471kg の食材を入れて

残ったのは 791L

入れている食品ロスは野菜屑や揚げ物の売れ残り

毎日放送　テレビ出演

朝日新聞　全国版ネットニュース掲載

ビジョン

人にも環境にもやさしい
捨てるがない社会

今後の展開

大学で作った堆肥の使い道

ー学内外で循環の仕組みを作るー

地域の農家さんに提供

学内の農園で活用

地域の
森林公園の緑化に

さらなる展望

いま

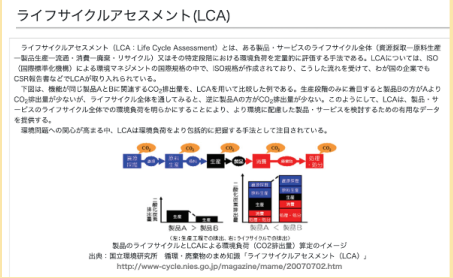
農家さんに質の良い
堆肥を提供する

これから

農家さんの作った
野菜の販路を作る

LCAを使って削減した環境負荷の見える化

（資材や廃棄食品が焼却処理されていた場合の環境影響）＋
（化成肥料を使った場合の環境影響）ー
（ユニコーンが堆肥化する時の環境影響）＋
（ユニコーン肥料を使う場合の環境影響）
＝ユニコーンが削減できた環境影響

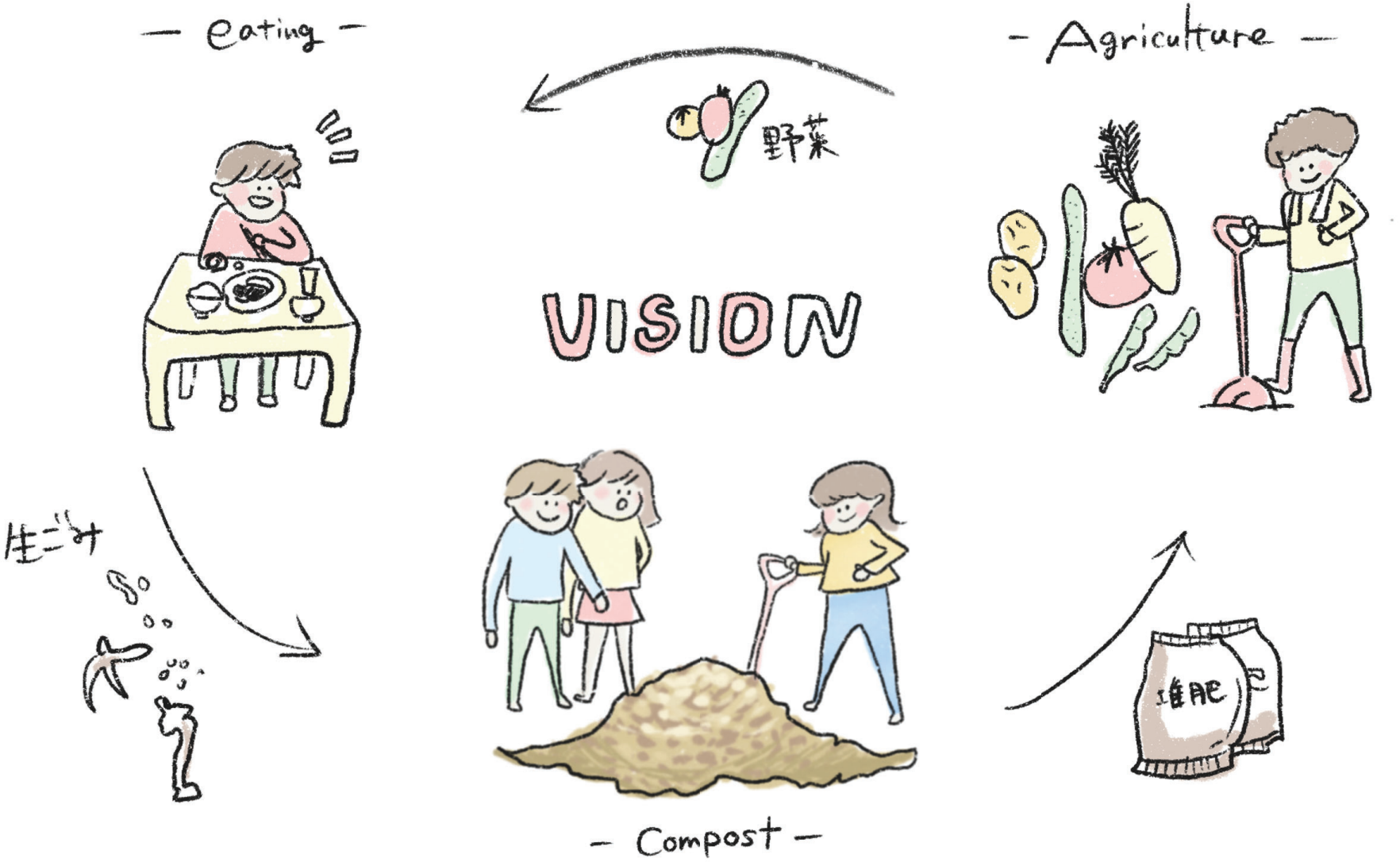

ライフサイクルアセスメント(LCA)

ライフサイクルアセスメント（LCA：Life Cycle Assessment）とは、ある製品・サービスのライフサイクル全体（資源採取ー原料生産ー製品生産ー流通・消費ー廃棄・リサイクル）又はその特定段階における環境負荷を定量的に評価する手法である。LCAについては、ISO（国際標準化機構）による環境マネジメントの国際規格の中で、ISO規格が作成されており、こうした流れを受けて、わが国の企業でもCSR報告書などでLCAが取り入れられている。

下図は、機能が同じ製品AとBに関連するCO$_2$排出量を、LCAを用いて比較した例である。生産段階のみに着目すると製品Bの方がAよりCO$_2$排出量が少ないが、ライフサイクル全体を通してみると、逆に製品Aの方がCO$_2$排出量が少ない。このようにして、LCAは、製品・サービスのライフサイクル全体での環境負荷を明らかにすることにより、より環境に配慮した製品・サービスを検討するための有用なデータを提供する。

環境問題への関心が高まる中、LCAは環境負荷をより包括的に把握する手法として注目されている。

（※）生産工程での排出、※）ライフサイクルでの排出）
製品のライフサイクルとLCAによる環境負荷（CO2排出量）算定のイメージ
出典：国立環境研究所　循環・廃棄物のまめ知識「ライフサイクルアセスメント（LCA）」
http://www-cycle.nies.go.jp/magazine/mame/20070702.htm


eating
Agriculture
野菜
VISION
生ごみ
堆肥
Compost

立命館発！未来に悩めるあなたに先輩からのアドバイス
Rits-マッチングサービス

2022年2月28日

立命館大学薬学部活性化委員会（R-PAC）
山田航平　野田歩美　松田清那

活動テーマ・目的

薬学部における学生目線でのキャリアサービス作り

▶現状：薬学部生のキャリア情報の不足

・HP情報の充実度が低い

・先輩方のご活躍を目の当たりにする機会が少ない

▶キャリアを学ぶことで、薬学部生が様々な業界で活躍することに繋がる！！

例）製薬企業、食品・化学・化粧品メーカー、CRO、MR

→幅広い業界で薬学人材は必要とされている！

活動内容

・キャリア発信に向けて様々な企画を開催（2021年5月～）
→在学生のニーズに応えた独自性のある企画

1 薬学部卒業生インタビューの掲載

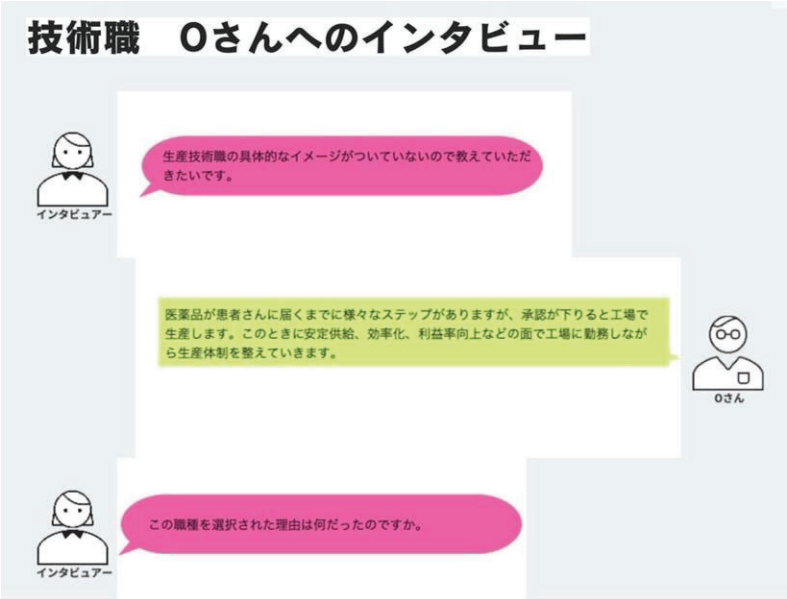
2 OB・OG懇談会の開催

3 低回生向けセミナー＆懇談会

活動内容

1 薬学部卒業生インタビューの掲載

立命館薬学部OB・OG 11名にインタビューを行い、団体HPに掲載。薬学生がOBOGの就職活動や現在の働き方について**気軽に情報収集できる**サービス提供に成功。



活動内容

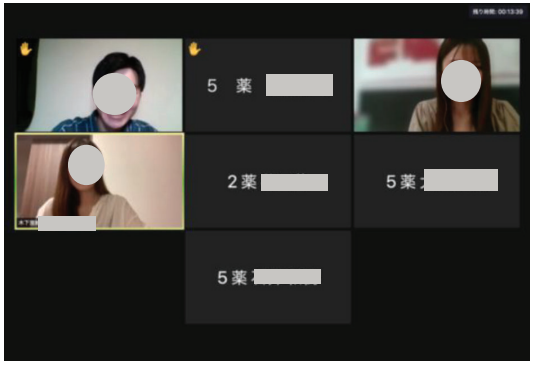
2 OB・OG懇談会の開催

様々な業界・職種でご活躍されている7名のOBOGに登壇していただき、気軽に質問・相談できる場を提供。

約30名の薬学部生が参加した。

目的意識がないまま学習や研究に取り組む薬学生に**卒業生の社会での活躍**、**幅広いキャリアの在り方**を知ってもらうことで今後の生活、キャリア選択に生かしてもらうことができた。

懇談会の様子



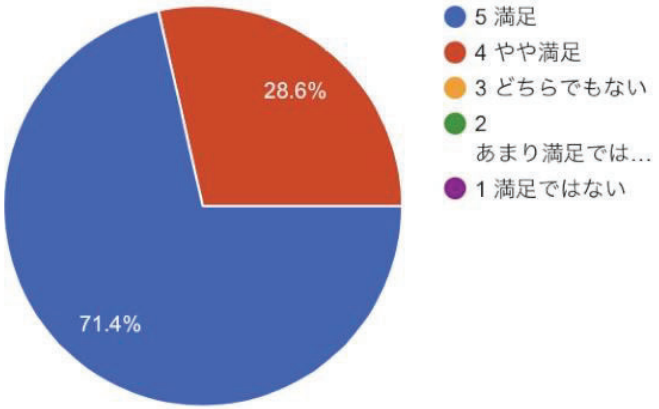
活動内容

3 低回生向けセミナー＆懇談会

1・2回生を対象とし、上回生の研究内容、研究に伴うキャリア情報を聞けるセミナーを開催。

低回生のうちから研究内容や取り組むべき授業について知ることができた等、満足度の高い評価を得た。

参加者の満足度調査結果



活動で得られたこと

1 キャリアを考える機会創成の基盤構築

OBOGの方々の社会でのご活躍の姿を目の当たりにすることが在学生にとって有益となることを認識。OBOGと在学生、上回生と低回生等の縦のつながりをつくることが薬学生自らのキャリアについて考えることの第一歩となった。

2 団体の認知度向上

上回生、低回生共に価値提供できるような企画やサービスを考え、参加・利用してもらったことをきっかけに団体の認知度が向上。

3 チーム・個人として新たな力を発揮、取得

OBOG等多方面へのアポ取りやイベント開催を通して、情報収集能力・コミュニーケーション能力・プレゼンテーション能力等新たな力、取得に成功した。

失敗から学んだこと

1 個人の強みを活かした役割分担の重要性

- 団体結成直後は個人の強みが分からないことから上手く役割分担をできず、余裕を持ったイベント準備ができなかった。

→活動を通して、個人の強みの活かし方や計画の立て方を学び、効率の良い団体運営につながった。

2 低回生メンバーの必要性

- さらに活動の幅を広げていきたい、持続的な活動にしたい反面、低回生メンバーの少なさが仇となる。

→広報への注力はもちろんのこと、薬学部の強みを活かし、自らのキャリアを積めるような活動にも手を入れることで低回生にも親しみやすい団体育成に取り組んでいる。

今後の展望

1 キャリア・広報を重視した活動を行う

- R-PACを薬学部だけではなく、他学部など多くの人に知ってもらい認知度をさらに向上していくために、SNSを用いてキャリア情報やR-PACの活動を拡散し、広報に力を入れた活動を行う。

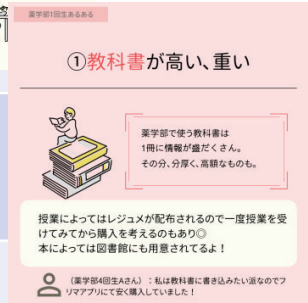
2 身近に感じてもらえるような団体に

- 本年度行ったようなOB・OG懇談会や低回生セミナー等のキャリアについて考える機会の提供を継続しつつ、活動の幅を広げていく。多くの学生が利用する生協食堂との薬学メニューの開発等を行うことで、低回生～上回生にも親しんでもらえるような団体にする。

活動計画(今後の活動内容)

2022年度4~7月の活動計画

4月	夏開催予定の食堂コラボに向けたクリアファイルの作成 新歓期間等でのメンバー募集活動
5月	SNS(Instagram)を活用したR-PACの広報活動 (キャリア情報やR-PACの活動の拡散)
6月	定期ミーティング
7月	生協食堂とのコラボ(薬膳料理企画・メニュー開発)



Sustainable Week

コロナ禍での新たな体験価値を創造し、SDGsの推進を図る

背景

- 大学での新たな学びのかたち
  ⇔大学生にとっての体験できる機会の減少
- MLGs（滋賀県版SDGs）の制定

目標

- コロナウイルス禍における、地域資源を活かした体験価値の創造

活動について

サステナダイアログ

4月～6月

- ゲストとSDGsについて話し、その様子をnoteで発信

活動について

MLGs推進活動

- ▶ 滋賀県版SDGs「MLGs」の普及活動
- ▶ オンラインセミナーの開催

世界湖沼会議（オンライン開催）

イオンタウン湖南MLGsポスター展示

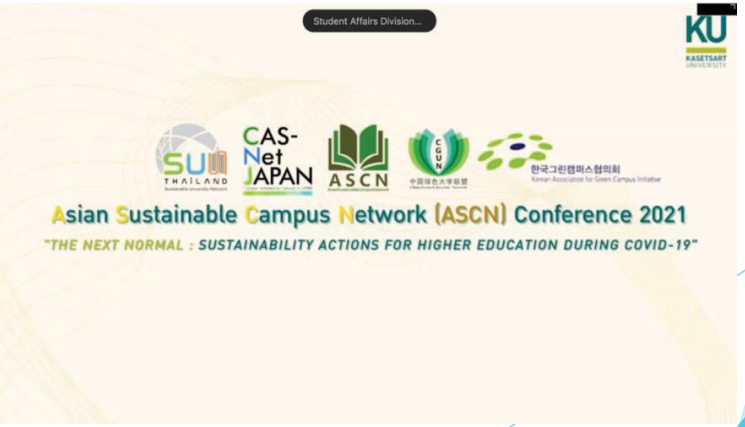
活動について

発信活動

- SDGsへのイベントへの協力
- オンラインセミナーの開催

エコプロ2021

ASCN



活動の成果

良かった点

- 活動体制を変えてコミュニケーションがとりやすくなった
- MLGsという新しい県の取組に対して、それを推進するためにこれまでの経験を活かし、新しい挑戦ができた

反省点

- 計画が当初より変わることもあり、中々思うように活動できなかった
- 一部のメンバーが頑張ってくれる時期もあった

今後について

- 学生団体としての活動には区切りをつけ、別の形でそれぞれが活動を行っていく
- MLGsやSDGsにまつわる活動などを各々していく
- メンバー同士で協働したり、互いに高めあったりできる関係性は続けていきたい

TaBiwa+R

2021年度 活動報告書

01.事業概要

団体紹介

TaBiwa+R

TaBiwa+Rは、地方における観光事業や地域活性をテーマに滋賀県を拠点に活動を行う学生団体です。地域をフィールドに学生のマイプロジェクトを実現し学生ならではの方法で滋賀の魅力を発信することを目標として、様々な企画を進めています。今年度は立命館大学の校友会未来人財育成奨励金受給団体として活動させていただきました。

2021年度概要

大学生ならではの視点とアイデアを活かして
滋賀県の地域創生・魅力発信を目指す。

Shigaken～滋賀で体験、発見、貢献、意見～

体験

若者が滋賀の魅力を**体験**できるきっかけをつくる

発見

滋賀の魅力やアイデンティティ・取り組みを**発見**する

貢献

若者に滋賀の楽しみを発信し地域活性化に**貢献**する

自分の住む地域に**意見**をもつ

02.企画紹介

ふるさとインタビュー

▲ NOTEで公開中

近年、地域活性化を目指す活動を積極的に行う学生や団体が増えてきている。人口・若者不足や過疎化による空き家の増加などを取り上げて、学生ならではの視点で解決しようとしている人々も少なくない。しかし地域と一言でいっても、同じ地域は一つもなく、抱えている問題やそれに対する解決策も異なる。そこで、地域を主なフィールドとして活動している方にオンラインで取材を行い、その活動の魅力や地域への思いを記事にして発信を行った。

山の健康

昨年度に続き、地域の森林を活用して地域活性化を目指す「やまの健康」に参加した。新型コロナウイルスの影響で延期となっていた植樹祭が来年度の６月に甲賀市で行われるため、植樹祭に向け甲賀市を盛り上げるための企画会議や、事前イベントである森林散策・森の中でのミニコンサートなどに参加した。甲賀市大原地区の方々との交流を通し、学生の立場から地域の山の魅力をどのように伝えていけるか、改めて考え直す良い機会になった。

03.今後の展望

今年度は「**体験、発見、貢献、意見**」をテーマとして、地域の魅力発信を目指して活動してきました。しかし思うように活動ができず目標を達成したとはいえない状況であると感じています。まずは団体としてしっかり今の状況を見つめ、実行できる計画を立てるところから見直していきます。しかし、この難しい状況の中でも地域との繋がりを絶やすことなく活動できたという点は良い点であったと感じます。周りの方々に支え続けていただいている分、これからも様々な手段を使って滋賀県、また甲賀市の魅力を伝えていきたいです。また来年度は大きなイベントである植樹祭が行われます。私たちが今まで取り組んできたことが活かせるよう準備していきたいと思います。

学生団体「ぎゅっと滋賀」

代表：宮本彩羽　副代表：細川満里奈　会計：宮崎由奈

agenda

① 「活動テーマ」

② 「活動目的」

③ 「活動内容」

④ 「活動の成果（活動して得たこと、失敗から学んだこと）」

⑤ 「今後の活動内容や今後のビジョン」

①活動のテーマ　②活動の目標

テーマ：「滋賀県の魅力を発信する」

目標：滋賀の魅力を知ってもらうきっかけつくりをする
→滋賀の魅力を知ってもらえるだけではなく、滋賀を訪れてもらえるきっかけに繋がるから。

一昨年からの私たちの活動である滋賀の新たなお土産を商品化し、

滋賀＝琵琶湖というイメージの払拭に向け活動をしてきた。

今年度も活動をつづけ、おみやげコンテストを定期的に開催し滋賀の新しいお土産を生み出し、できるだけ多くの方に届けたい・・・

③活動内容

12月11日「第2回滋賀ぎゅっとおみやげコンテスト」を開催

三井アウトレットパーク滋賀竜王店にて、
今年度のコンテストを開催した。

子どもの部5名

大人の部5名

を審査員の方に選んでいただいた。

③活動内容

「シガトー」2回目発売
（販売期間12月10日～2月14日）

- 平和堂40店舗
- 琵琶湖汽船株式会社（3店舗）
- JAレーク滋賀
- 彦根みやげ本陣
- 近鉄百貨店草津店
- 立命館生協

計47店舗で販売

NEWS RELEASE

株式会社 平和堂　〒522-8511 滋賀県彦根市西今町1番地

2021年12月9日

大人気商品！

再販売決定！

立命館大学の学生団体「ぎゅっと滋賀」が企画・開発

第1回「滋賀ぎゅっとおみやげコンテスト」入賞作品

滋賀県産ほうじ茶を使用した

ガトーショコラ「シガトー」

12月10日(金)より滋賀県内の平和堂で店舗・数量限定販売!!

平和堂（滋賀県彦根市、代表取締役社長執行役員：平松正嗣）は、立命館大学びわこ・くさつキャンパスの学生団体「ぎゅっと滋賀」が企画・開発した滋賀県産ほうじ茶を使用したガトーショコラ「シガトー」を、昨年に引き続き12月10日(金)より、滋賀県内の平和堂 40店舗にて数量限定で販売します。

この商品は、第1回「滋賀ぎゅっとおみやげコンテスト」入賞作品をもとに、「ぎゅっと滋賀」が企画・開発した新しい滋賀みやげで、昨年12月に県内のホテルやスーパー・立命館大学生協などで新商品として発売されました。平和堂でも県内各店で数量限定販売したところ、発売後数日でほぼ完売するなど、大変ご好評いただいた商品です。

今回の再販売については、今月12月11日(土)の第2回「滋賀ぎゅっとおみやげコンテスト」（於：三井アウトレットパーク滋賀竜王）の開催にあたり、数量限定で第1回商品の再販売が決定したものです。

朝宮茶が日本五大銘茶に数えられ、最澄が唐から持ち帰った茶の種子を比叡山に植えたのが日本茶の始まりと言われているほど、お茶と関りが深い滋賀県。

県産ほうじ茶を使い、琵琶湖や近江富士をモチーフにしたパッケージ、とってもかわいい学生デザインの商品POPとともに、ぜひお楽しみください。

※写真はイメージです。商品デザインは実際の仕様と異なる場合があります。

<「ぎゅっと滋賀」さん考案の商品POP>

④活動の成果

活動して得たこと

・チームで１つの目標に向かって頑張れる力が身についた
・市民の方の認知度を得た。学生団体「ぎゅっと滋賀」の活動を市民の方が知ってくださるようになってきて、市民の方から「コンテスト続けてほしい」と言ってくださった。
・メンバーは「行動力」「周りを見る力」「協調性」を得ることができた

失敗から学んだこと

・メンバーに情報共有する際に、自分の言いたいことが相手に伝わっていないときがあったので、迅速かつ的確に発言する力をつけたいと感じた。
・いろいろな企業様と関わらせていただく中で、お断りを受けるところ、失礼に当たる行動をしてしまったところがあった。ただ依頼するのではなく、相手のメリットやニーズに沿った提案までできるような交渉力を伸ばしていきたいと思った。

⑤今後の活動内容や今後のビジョン

① 新入生に対する勧誘活動を予定

② 第2回商品化に向け活動中

③ 「第3回滋賀ぎゅっとおみやげコンテスト」開催を検討中

ご清聴ありがとうございました。
来年度も精一杯取り組みたいと思います！！

学生団体

カノール

農を通し学生と生産者をつなぐ

立命館大学　食マネジメント学部　３回生

代表：長谷川　りか

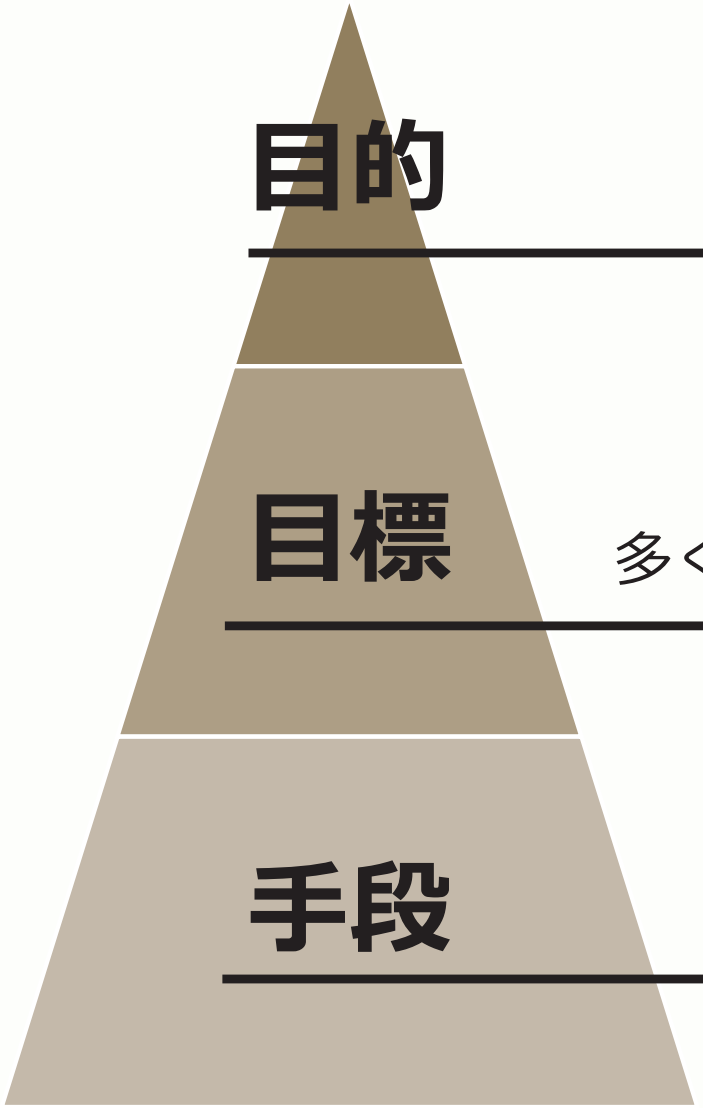
副代表：山中　紺名

活動テーマ 2

農業の在り方を変え
生活者の意識を変える

※生活者＝社会で生活する人

活動目標 3



目的　農で**気づき**を耕す

目標　学生にとって生産者をより身近にする
多くの学生にとって農業が当たり前の経験となる

手段　農業インターンの情報発信や農業についての魅力発信
＋縁農の企画

活動内容 4

立命館大学の学生と**全国の生産者**を
つなげる「**プラットフォーム**」の運営

1. 「縁農」の企画＆実施

2. 生産や農についての情報発信

活動内容①　縁農の企画＆実施　5

えんのう

縁農

縁農は実際に**農業**や**漁業**、
酪農などを行う生産者の元へ実際に訪問し、滞在。
仕事を手伝いながら、交流ができるというもの

農家：人手不足解消、災害時のボランティア
学生：学びや活躍の場の提供、コロナ禍での孤立、オンラインの活用

活動内容①　縁農の企画＆実施　6

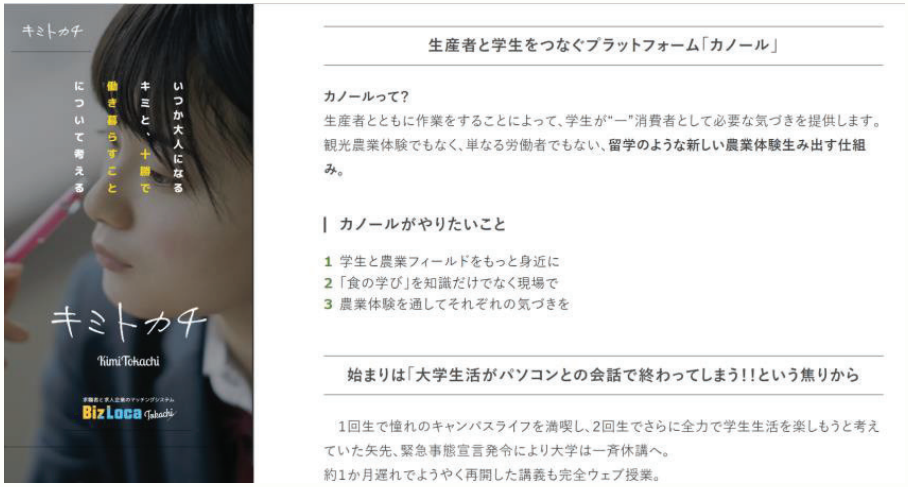
例）2021年12月・和歌山県有田市

- １週間滞在する縁農を２回に分けて行った
- 運営メンバー４名に加え、募集８名に対して７名の参加者が集まった
- 参加者アンケート「授業以外で学べる場」「楽しかった」「もう一度、行きたい」
- 一方で、「参加したかった」「もっと早くに知りたかった」

➡継続的に開催する必要性

活動内容②　情報発信

運営メンバーが現地訪問
生産者についての記事を
作成＆発信



【体験記】和歌山県・畑伝で学んだみかんの"おいしさ"【みかんの収穫・梱包編】

学生団体 カノール
2022年2月28日 13:16

畑伝さんってどんなトコ？なぜ緑農に参加したの？
天候との戦いや梱包作業。出会った人たちのコトまで。リアルな緑農体験記です。（Writer : Yui Ozeki）

こんにちは！
立命館大学　食マネジメント学部　1回生のゆいです！

今回は、12月に訪問させていただいた**和歌山県の畑伝（はたでん）さんの紹介と緑農の体験記**です。

note

今後の活動内容やビジョン　8

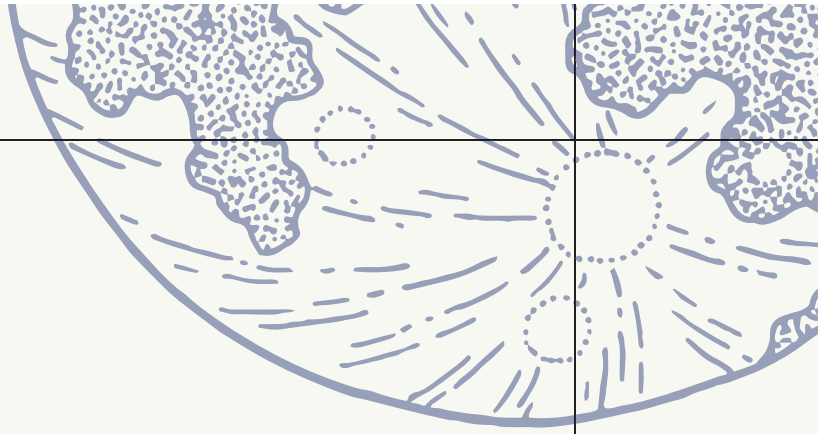
縁農の継続的な実施

より多くの学生に参加してもらう

生産者と学生がより１対１でつながれる取り組み

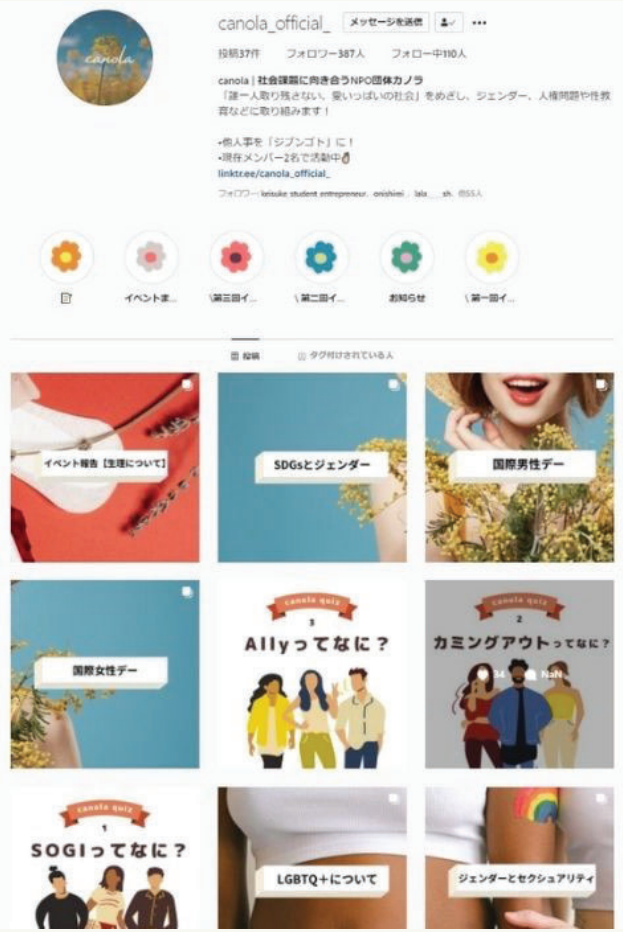
お互いが何を求めているのかがクリア新たな関係性
例）マッチングetc.

より多くの学生に関わってもらう



成果報告会資料

canola（＃大学に生理用品を_立命館大学OIC）



canola

canolaは2020年9月より活動をはじめ、
社会課題のなかでも特にジェンダー、人権、
性教育などを取り扱い、
課題解決やその推進に取り組んでいる団体です。
SNSでの発信と月1度のセミナーイベントをはじめ、
さまざまな「きっかけ」作りの場を企画しています。

目次

1. 活動テーマ、目的
2. 活動内容
3. 活動の成果（活動して得たこと、失敗から学んだこと）
4. 今後の活動内容や今後のビジョン

活動テーマ、目的

「生理の貧困」という問題への直接的アプローチ、
ジェンダー課題の啓発と性教育の拡充

※「生理がある人」「生理がない人」どちらもに対する

「生理の貧困」とは

生理の貧困とは、生理用品の購入や利用ができない状況を指します。
月経に伴う経血の手当のために使う生理用品の使い回しや未使用は
健康への影響も憂慮されています。
また生理期間中に学校を休んだり、重要なイベント参加を断念したりするなど
「機会の損失」も懸念されています。

活動内容

- OICのAC130･230･330教室前の男女トイレ、AC110前多目的トイレに**無料の生理用品の設置**
- 生理用品の補充、環境の維持、衛生管理

- 個室内ポスターの設置
- そのほかの生理用品の紹介コーナー設置

（未達のため引き継ぎ、来年度計画）

実際の様子（11/26）

活動内容

- **男女トイレ･多目的トイレの計7カ所**に生理用品と利用者アンケートを設置
  （一階のみ個室内に設置、男子トイレにも三角ボックスを設置）
- 事由を問わず使用して良いものとし、一回触れたものは持ち帰ってもらう
- 実働メンバー6名（男子3名、女子3名）にてシフトをくみ活動中
- **女子トイレは少なくとも週３で補充、清掃、見回りを実施。**
  （男子トイレ、多目的トイレは週1，2で同様の活動を実施）
- 11月より校舎サイネージや掲示板に広告を掲示

活動の成果や学び

- 活動を周知、認知させることの難しさ
- 想像以上の日々の負担の大きさ
- 関係者との密な連携の必要性
- 活動の社会的なニーズや意義の再認識

今後の活動内容

- 現行の活動の維持継続
- 実働メンバーの募集、設置場所の追加
- 広報の強化
- 都度のアンケート実施によるニーズ調整

今後のビジョン

「私たちの活動の必要性がなくなること」

茨木ご当地ソフトクリームプロジェクト

2021年度の活動について

活動テーマ

茨木市の地域活性化を目指し、

ソフトクリームを通じて人々を笑顔にする

活動目的

茨木市にある大学として地域に還元できるよう、
人々との交流を深め、つながりを強化する

→ 地域の人に大学をより身近に感じてもらう

- コロナ禍では私たちだけでなく茨木市の人々も苦しんだと考えられる。このような現状であるからこそ、先代が残した「茨木バニラホップ」の味を通して、子供から大人の幅広い世代に関心を持ってもらい、笑顔になってもらう。

- 私たちの作ったソフトクリームを通じて、立命館大学と茨木市、その他の団体との架け橋となる。

活動内容

ミーティング

週に1度、ZOOMにて開催。
活動の振り返りや今後の活動予定の共有、次期幹部などの話し合いを行った。

巻き練習会

ソフトクリームサーバーを用いてソフトクリームを巻く練習を兼ね、メンバー間の交流を図った。
昨年はBCPレベルの関係で開催が2回となった。

OICフェスタ

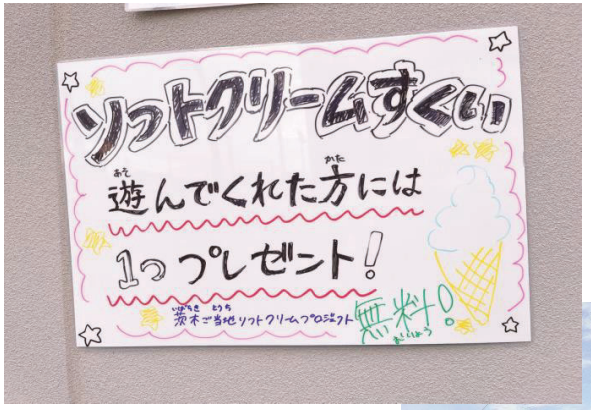
地域活性化とソフトクリームを通して人々を笑顔にするという目標を元に、「ソフトクリームすくい」企画を構成・実施した。当日は地域住民の方々との交流を図った。

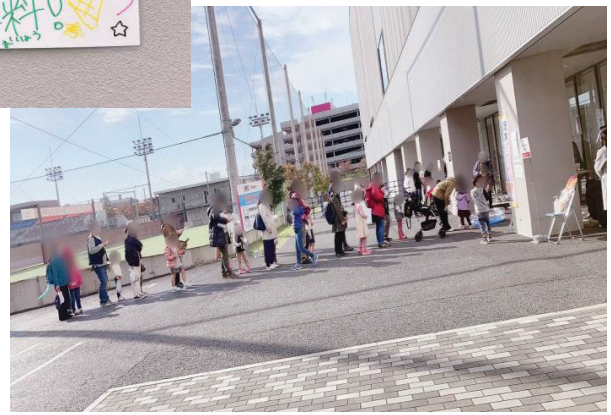
フィールドワーク

ソフトクリームショップを訪れ、ソフトクリームの研究と共にメンバー同士の親睦を深めた。

活動の成果

OICフェスタ





企画

メンバー内で当団体の活動の宣伝を兼ねた来場者に合わせた企画の構成から出展まで行った。

団体の宣伝

当団体の活動内容やSNSの概要をまとめたチラシを作成。来場者に配布し、今後のイベントへの参加呼びかけを行うなど宣伝活動を行う事が出来た。

地域交流

2年ぶりの対面企画開催で当日は地域住民の方々や子供達がたくさんご来場された。ブースではレクリエーションを通し、地元の子供と交流することが出来た。

活動の成果

巻き練習会

活動内容の引き継ぎ

当団体の活動継続のために、ソフトクリームサーバーの使い方や巻き練習会の活動内容の引き継ぎを兼ねて、新入生との交流、親睦を深めた。

フィールドワーク

メンバー間の交流・親睦

過去、当団体に携わってくださった日世さんが運営するお店にソフトクリームの研究を兼ねて来店。味の感想をシェアして親睦を深めた。

↓

活動に参加するメンバーの固定化

↓

話し合いの必要性・活動指針の見直し

今後の活動内容やビジョン

- 団体としての目的達成のために、オンライン上でのミーティング・企画により、メンバー間の交流や意見交換を図る

- ソフトクリームデザインコンテストや、地域住民とのオンラインを用いた交流会の開催、学校外のイベントへの参加・出店

  →ソフトクリームを通した地域貢献

  先代の残した「茨木バニラホップ」を次の世代にも伝え、

  幅広い世代に関心を持ってもらう

お取り寄せアイス企画

オンラインで各々が取り寄せたアイスを紹介し合い、実際に食べて感想を交換！
交流を深めました。

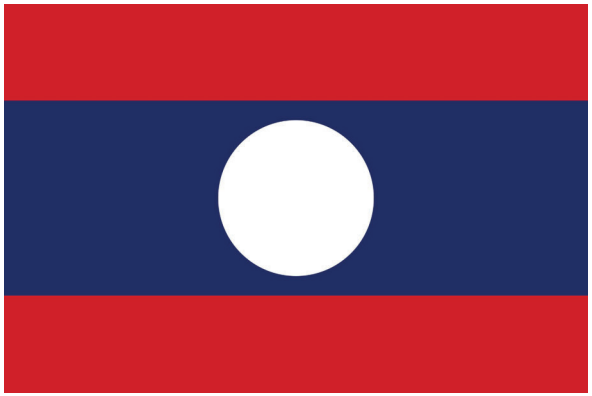
Nyim Coffee
2021活動報告

①「活動テーマ」

ラオスコーヒーを通し日本国内でのラオスの知名度向上に努め、

利益の一部を現地の教育に還元すること。

近年のラオスの貧困により教育が行き届いていない現状、そして比較的安価で取引されているラオスコーヒを日本で販売し、付加価値、知名度を向上させることを目的としラオスの貧困問題を自分たちのできる限りで支援する。



②「活動目的」

日本国内でのラオスとラオスコーヒーの知名度を向上し、ラオスの子供たちの教育と現地のコーヒー農家を目に見える形でサポート。

発展途上国という存在をより身近にし、ラオスと日本の繋がりを強める。

支援先：

<u>坂雲寮</u> (NGOクワトロが運営する寮)

→成績優秀、勉強熱心であるにも関わらず、経済的・地理的など様々な要因で学校に通うことが出来ない高校生が集う寮

③「活動内容」

主な活動内容：　オンラインでのラオスコーヒー販売（利益の5%寄付）

-オンライン販売にあたり、週2回のミーティングで商品開発、広告、販売経路の確保について話し合う

-商品開発　京都府宇治市のAMATISTA COFFEE様とATJから輸入したコーヒー豆でオリジナルブレンド開発

-広告　　主にインスタグラムのストーリーや有料広告、

　　無料参加型キャンペーンなど

-販売経路　STORESにてオンライン販売、実店舗委託

　　（京都府宇治市のAMATISTA COFFEE様、京都府焙煎屋様など）

④「活動の成果
活動して得たこと失敗から学んだこと」

- 資金内でのお金のやり繰りの大変さ:

  コーヒーの焙煎、袋詰め、お客様への送料の負担など多くのところに資金が必要であったため、運営に苦労したが、お金に関しての知識も増え、管理力を学べてとても貴重な機会となった。

- 予想外な出来事に対応する大切さ:

  輸入先のコーヒーの品質が想定していたものと違った。→製品の徹底的なリサーチの大切さを実感

- 珈琲屋との連携の重要性:

  プロの意見やアドバイスによって、品質の良いコーヒーを製品することに成功。

⑤「今後の活動内容や今後のビジョン」

今後の活動内容：

- 販売の継続、宣伝方法の取り組み

  （インスタグラムのストーリーをさらに活用する、宣伝ビデオを作成、私たちとラオスの繋がりやラオスの状況を画像とかビデオで可視化する）

- 新製品の開発

今後のビジョン：

- 更なる製品消費の拡大、寄付金額割合増加
- 他のコーヒー店様との提携、NPO等との連携

BOTTLE TO BOTTLE

①活動テーマ

Bottle to bottleの仕組みを立命館大学に本格的に導入するための社会実験・フィールドワークを行う。

- 協栄産業株式会社への工場見学等を通じて、実際のペットボトルリサイクルシステムの現状を知る

- 学園祭などのイベントを通じてプロジェクトの活動を発信し、リサイクルシステムの周知や興味を持って頂いた方との交流を行う

- 協栄産業さんや、先生との交流を通して、リサイクルシステムの学習を定期的に行う

②活動目的

〃　ペットボトルを再びペットボトルに戻す水平リサイクルの仕組み(以下、BtoB)を企業（協栄産業を予定）と構築し、その仕組みを立命館大学に取り入れ、立命館大学のエコキャンパス化と持続可能な社会の実現をする。また、大学生に先進的なリサイクルシステムの存在を発信する。

背景：授業等を通じて海洋プラスチックごみなどのプラスチック問題が深刻になっていること、解決の方法としてサーキュラー・エコノミーの考え方を知り、本プロジェクトを発足するに至る。

協栄産業さんはペットボトルの水平リサイクルにおいて、サーキュラーエコノミーを実現させた日本をリードする企業。
企業と大学が協力することで、サーキュラーエコノミーを学内だけではなく、社会を巻き込んで実現することが出来ると考えた。このような取組は大学では早稲田の社会実験を例外になく、この仕組みを立命館大学で取り入れることができないかと考えた。

③活動内容

5月　　活動開始
6月　　学習会
7月　　学内アンケート
9月　　クレオテック見学・企業とのミーティング（久宝金属製作所、伊藤園、協栄産業）
10月　　学祭準備
11月　　学祭展示
12月　　キャンパス内での実証実験
1月　　協栄産業とミーティング・キャンパス内での実証実験

④活動成果

・先生との学習会や企業とのミーティングや工場見学を通して、Bottle to Bottleのシステムやプロセスを知ることができた。

・学祭や実証実験を通して、活動内容を他者へ発信できた。

・企業や学内の組織と交流の機会を得ることができ、来年度の活動へと繋げることができた。

・活動を進める中で、自分達も普段の生活から、ゴミの分別など意識するようになった。

⑤今後の活動内容及びビジョン

- 今年度始めた仕組みを動かしていく。

他の地域を調査しながら質の良いものを回収することができるという実績を作っていく。

- 立命館大学が排出するペットボトルの品質を向上させる取り組みをする
- 協栄産業様としっかりと連絡を取り合い近況報告を随時行う
- 茨木環境保全様に調査にいって自分たちの取り組みを話したり思いを伝えたりして共感してもらう
- 他の廃ペットボトル排出事業者様（スーパー）などに対して立命館大学がモデルケースなってお話をさせてもらう（エフピコ様という廃ペットボトルを食品トレーにリサイクルされている会社が大手として存在されている）
- 飲料メーカーであるサントリー様にお話を伺わせてもらう

- 協栄産業さん、茨木環境保全さんと連絡を定期的に取り合いながら、リサイクルシステム実現をを大学内にとどめず、社会全体でとりくむ

⑥その他

BtoBではメンバーを随時募集しています。興味のある方はぜひ、DMを頂くか、コメントをしていただければ幸いです。

学生メディア団体　Syumirun!
活動まとめ

活動テーマ

情報誌の作成やイベントの運営を通じて

学生同士や茨木市との交流を促進する

活動目標

茨木市と学生を繋ぐきっかけを作り、茨木市のまちづくりに貢献すること

→ 学生とつながる面白さやメリットを地域の方に感じてもらい、
学生は茨木市に対して関心を持つようになるという影響を与える

活動内容

2021

4～5月　2021フリーペーパー作成

6月　　フリーペーパー発行

7月　　新入生交流会

8月　　地域イベント（夏祭り）

10月　地域イベント（ハロウィン）

11月　Asiaweek出店

2022

1～3月　2022フリーペーパー作成

活動の成果

失敗をポジティブに捉える力

illustratorとWordpress等の操作技術

実行力・企画力

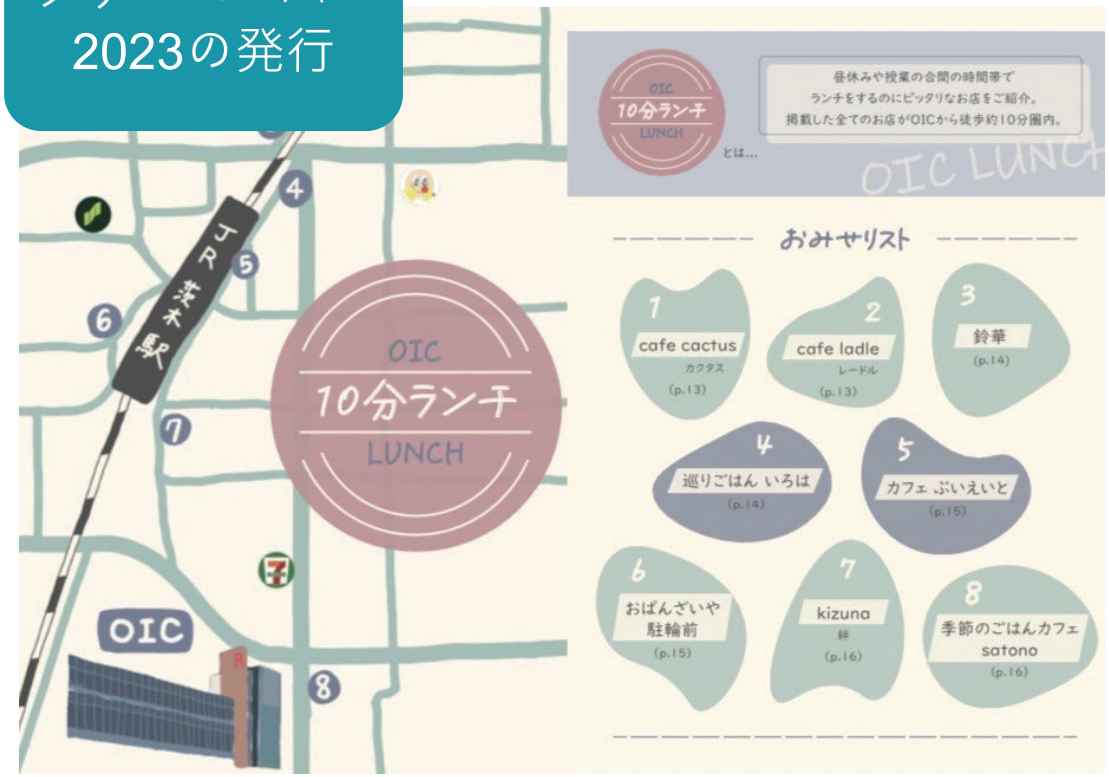
継続する力

人を動かす力

タスクマネジメント

今後の活動内容やビジョン

フリーペーパー
2023の発行



地域の方との
繋がり強化

Team-mate

成果発表　2022

Kanon OKada

Team-mate　活動テーマ

学内が網羅的に繋がることができる

プラットフォームを作る

Team-mate 目的

立命館大学の繋がりの機会損失を解消する。

繋がりから挑戦を加速する。

Team-mate　VER.1

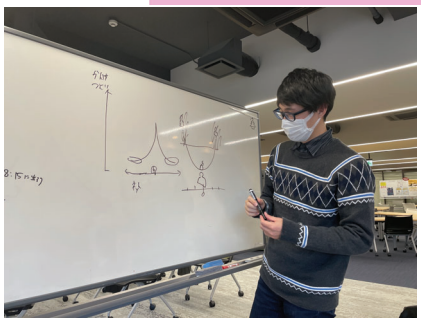
iOS , Android 対応

活動内容

- サービスの認知度向上のための企画運営
- アプリ開発
- エンジニアの育成

活動の成果

- エンジニアが成長し、開発できるようになった
- ミスキャンパス連携　インタビュー企画・動画作成
- 地域連携課と組んでフードトラックの情報発信
- アプリの改善
- 全体で意識の共有・今後について議論



活動を通して学んだこと

- 役割分担とマネジメントの難しさ
  やり遂げるためのマネジメントの必要性
  目標設定と達成をしていくこと

- 不確実な中を進む難しさ
  成果がない中で企画に対して自信を持ち続けること

今後の活動について

- 企画の全体像を練り直す
- 実現に向けた計画策定
- タスク管理と共有の仕組みづくり

プロフィール

自分の確認・編集ページ

他の人のプロフィール

“繋がるきっかけ”になるプロフィール

プロフィールの便利な機能

- ハッシュタグ
- SNS連携
- リンク掲載
- 所属表示
- DM機能

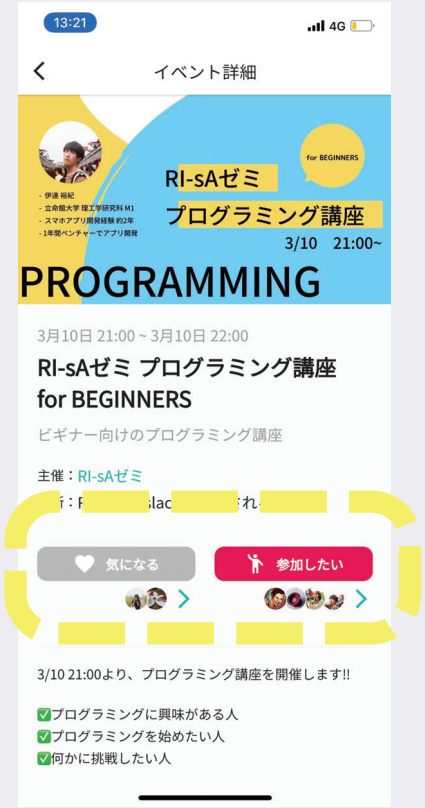
🌟普段は垣間見ることのない
新たな一面を知れる🌟

団体ページ

🌟団体SNSへの導線になり、学生に情報が届く。

🌟非公認団体やプロジェクトも発信可能に。

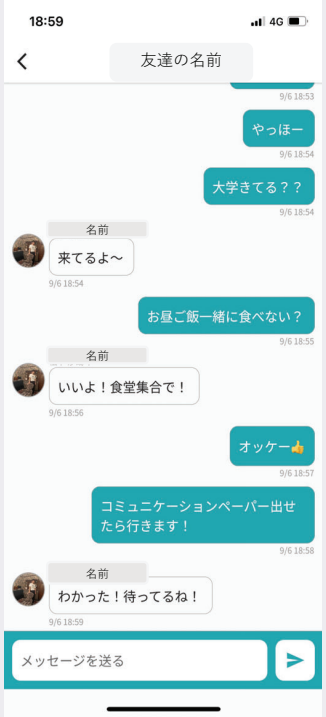
イベントページ



🌟告知フォームを簡単に作成＆発信

🌟気になっている人のプロフィールが見える

ダイレクトメッセージ（DM）機能



学内誰とでもメッセージ

🌟SNSで繋がっていない先輩や
全く繋がりのなかった他学部の学生に
連絡できる唯一の手段